

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771000171	
法人名	株式会社 エコ	
事業所名	グループホーム 天神 1階	
所在地	福島県二本松市杉田町一丁目2-1	
自己評価作成日	平成27年6月15日	評価結果市町村受理日 平成27年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kairokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成27年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・地域資源を活用し、ボランティアの受け入れを行っている。また、地区の清掃活動への参加や地元消防団との避難訓練など地域とのつながりを大切にしている。
- ・明るく訪れやすいホームの雰囲気作りに職員全員で力を入れている。
- ・年度初めにホーム目標、個人目標を掲げ、職員のスキルアップにつなげている。入居者様が安心、安全に暮らしていくように社内外の研修に積極的に参加し、スキルアップや目標達成を目指し、ケアの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 町内の清掃・行事等への参加や地元ボランティアや介護専門学校の実習、高校生の体験学習を受け入れるとともに、事業所の行事に地域住民を招待するなど日常的に利用者と地域の交流が行われている。
- 2 法人、事業所内研修を行う他、グループホーム協議会主催の外部研修等に積極的に派遣し、人材育成に取り組んでいる。職員一人ひとりが目標を持ち、事業所理念を共有しながら支援が行なわれ、利用者の安心と笑顔が見られる穏やかな生活につながっている。
- 3 利用開始時に終末期に向けた方針を説明したうえで本人・家族の意向を確認し、協力医、訪問看護ステーションの看護師と連携しながら支援がなされている。必要なつど主治医による説明がなされ、看取り支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全部面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には地域の方・入居者様と共に歩むことを明記している。また、会議などで確認を行い、職員が理念を共有し、実践につなげている。	法人理念・事業所理念が有り、事業所理念に関しては、毎年スタッフ会議にて職員が理念の確認をして行っている。職員は理念の三つの心(寄り添う心、通い合う心、感謝する心)を共有し日々の支援を行っている。事業所内にも表示し職員会議等で意識の共有を図っている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域のボランティアンの方が日本舞踊を披露して下さり、地域の方と一緒に観賞し楽しんでいる。	地域の町内会に加入し町内の行事・清掃作業等に参加を行っている。町内地域の方々も事業所にボランティア訪問し、舞踊・ハンドベル・野菜作り指導・吹奏楽演奏等多くの方々との交流が継続されており、入居者の方々の楽しみとなっている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護専門学生の実習・高校生の体験学習の受け入れなどを行っている。また、各行事に地域の方にも参加して頂き、認知症について理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議では、研修・行事等の報告を行い、出席頂いている方からご意見を頂き、運営に活かしている。	運営推進会議は、地区区長・民生委員・消防団・地域代表・入居者代表・地域包括・本部職員・事業所管理者・主任等のメンバーも出席し事業所報告・説明し、質問意見等が活発に出され、それを参考にしながら対応するなど改善に繋がりサービスの向上に生かされている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議へ出席頂いており、その都度お互いの情報交換を行っている。	地域包括支援センターの職員が毎回運営推進会議に出席し、事業所の取組や状況等を相互に情報交換を行い連携している。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修へ積極的に取り組み、ホームにて伝達講習を行い、職員全員に周知徹底し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束・権利擁護の研修が行われ、参加した職員から事業所内職員に伝達講習を行い、すべての職員に周知している。マニュアルも整備され常に閲覧出来るようになっている。日中の玄関施錠は、行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修へ参加し、ホームにて伝達講習を行い職員全員への周知徹底を図っている。また、職員同士で注意し合える環境ができていて、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し、職員へ伝達講習を行っている。また、必要な入居者様に関しては市役所との連携を図りながら、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に連絡をとり、入居時には納得頂けるよう説明を行っている。また、解約時はご家族の意向に沿い支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させていている	入居者様のご意見をお聞きし、ケース会議で話し合いを行っている。また、運営推進会議に家族代表で参加して頂きご意見を頂いている。	利用者・家族等の意見要望が出しやすい様に、意見箱を設置し、毎月のお便りで報告している。また訪問時に家族からの聞き取り等を行っている。入居者に対して日々の支援の中の会話等からも、意見を汲み取り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い、本社への意見などを話し合える機会を設けている。	毎月管理者・主任参加のスタッフ会議の中で職員から意見・提案が出され、話し合いをしている。管理者が各職員と個人面談も行い意見の把握に努めている。対応が必要な場合は、本社に要望書を提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無・個々の力量に応じた給与となっており、資格取得が出来る様に社内研修等の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外部の研修に参加しやすいよう、調整を行ったり、積極的に参加出来る様に研修案内を掲示するなど、研修の機会の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や包括支援センターの研修等に参加し、他ホームとの交流やスキルアップを行い、サービスの質の向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、入居者様の不安な気持ちなどに寄り添い、ご自分の場所が出来る様に支援している。他入居者様と良い関係を築くことが出来るよう架け橋となって支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階から、要望や不安を聞き、安心して頂けるように支援している。また、職員にも情報の共有を行い職員全員で支援が出来る様に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の希望を最優先とし、その他ご家族様の要望や、生活歴なども踏まえ、その方に合った支援が出来る様、職員で考え、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、一人ひとりが出来る事ややりたいことを職員と一緒に行なうことが出来る様に支援している。また、今までの経験を活かし季節行事など教えて頂きながら行なうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに訪れやすい雰囲気作りを職員は常に心掛けており、ホームでの行事等にも声をかけ一緒に楽しんで頂けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みのあるお店などに行く事が出来るような外出支援を心掛けている。	家族の協力も受けながら入居者の要望に沿って、馴染みの店での趣味の材料・好物等買い物等外出支援を行うほか、馴染みの人との交流継続のため、手紙・電話等の連絡支援等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が穏やかに関わる事が出来る様に日々のレクリエーションなどを通して、楽しく過ごすことが出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に訪れやすい体制を整えている。退去後もご家族からはご連絡を頂いたり、相談に訪れたりする事もある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、寄り添う介護を行うことで入居者様の思いを汲むことができ、入居者様本位の生活が出来るように支援している。	入居時の暮らしの情報やアセスメント等による一人ひとりの基本情報を踏まえて日々の生活支援の中で会話や表情、行動等から思いを取り本人本位の生活の継続が出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族・知人の方から、情報をお聞きし今までの生活歴の把握に努め、馴染みのある生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で関わり合いを大切にし、状態観察等を行い、主治医や医療機関との連携を行い指示を仰いでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員・計画作成担当者が中心となり、入居者様・ご家族の方に意向等お聞きし、それに基づき会議で話し合い、介護計画書の作成を行っている。	入居時に、暮らしの情報等アセスメントを行い、本人や家族の意向も参考に介護計画を作成している。また、毎月モニタリングを行い経過や変化の状況を把握しながら、利用者毎検討課題をあげケース検討会で、定期的に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、出勤時に業務日誌を確認し、情報を得ている。また、支援にあたり必要なことを月1回行っているケース会議等で話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに合わせ、ご家族と話し合いを行なながら福祉用具の使用を検討している。また、地域リハビリテーションの利用などを行い、個々のニーズに合わせた支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所以来、日本舞踊のボランティアの方が来て下さり顔なじみとなっている。また、4年前より年末地域ボランティアのハンドベル演奏会などを通して、皆様と触れ合える場を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連絡を密にとり、入居者様の体調に応じ、指示を受ける体制を整えている。	かかりつけ医が月1回往診に来ており、その受診結果等を全職員がケース会議等で共有すると共に家族には電話及び文書で連絡し、適切な受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携の看護師が来訪し、その都度情報交換を行い、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、ご家族様と連絡を密にとり安心して治療が受けられることが出来るようにしている。また、早期退院が出来るように医療機関とも連絡を取り、情報交換が出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族様の意向をお伺いし重度化した場合の話し合い等を行っている。また、必要に応じて主治医とご家族が話し合いが出来るように支援している。	入居時に本人・家族に重度化及び終末期に向けた方針を説明すると共にその意向を尊重し看取り介護についての同意書を準備し、本人・家族、医師、看護師、職員等が情報を共有しながら支援に取組んでいる。昨年10月、関係者協力のもと看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	毎年、消防署の方から救急救命講習の指導を受け、対応できるようにしている。また、会議等でも急変時の対応について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わずに利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでは毎月消防訓練を行っている。4・10月には消防署・消防団の方の協力を得た、総合訓練を行っている。 また、消防団の方には運営推進会議にも参加頂き、ホームの現況など情報を交換している。	年2回は消防署立ち合いのもと総合避難訓練を実施すると共に毎月自主訓練を実施している。自主訓練では通報及び消火器具の操作訓練、避難経路等の確認を行っている。また、災害に備え食糧、飲料水等の備蓄がなされている。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーなどの研修へ参加し伝達講習を行うとともに、職員同士で注意し合う環境になっている。	職員は入居者に対し毎日、あいさつ、笑顔、自尊心に配慮した言葉遣いをモットーに寄り添いかつ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言葉を聞き、行動に移し、自己決定が出来るようになっている。常に入居者様の思いが言葉となり表に出やすいように傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペース・やりたいことなど希望に沿って支援出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服などを入居者様がご自分で決めることが出来るに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑での野菜作りや食事の下ごしらえを職員と共にを行い、楽しみが持てるように支援している。	敷地内畠での茄子、胡瓜の収穫作業へ参加していただいたり、料理の味付け、盛り合わせ等に協力していただいたりし食事が楽しいものになるように支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った主食の量を測り提供している。また、水分も食事以外に水分が摂ることができるように配慮し、脱水に注意し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、必ず口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じては口腔ケア用のスponジを使用するなどの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事・おやつ前にトイレの声掛けをさりげなく行い、排泄の失敗を出来るだけ減らすことが出来る様に支援している。	個々人の排泄チェック表等参考にしながら、また食事等の前後に声かけをしながらトイレ誘導をしてトイレでの排泄にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつには牛乳を提供し、また食事には野菜を豊富に使用し工夫している。また、ラジオ体操などを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入居者様の希望に合わせて入浴が出来るように行っており、3日に1回入浴が出来るように支援している。	個々人の意向や体調に配慮し、入浴を楽しめるように声かけをしながら3日に1回のペースで入浴支援を行っている。また、春と秋には岳温泉に行き日帰り入浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムや体調に合わせて、過ごして頂けるように支援している。夜間中々眠れない様な時は寄り添い安心が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会などを行い、変更などがあった場合申し送りや服薬箱にメモを行い、職員全員が周知できるように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方がやりたいこと、出来ることをご家族などから情報収集を行い、職員・他入居者様と一緒に行っている。また、職員は必ず感謝の言葉伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物などの支援を行い、また、ご家族にご協力を得ながら、外泊などが出来るように支援している。	家族等の付き添いで近場の商店での買い物（お菓子類、刺繡糸など）、散歩等を楽しめるよう支援を行っている。また、晴天時、外気浴をし気分転換を図れるよう支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意を得て、ご自分で所持し、好きな時に買い物ができ、支払等が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人の方に電話・手紙を出したりできるように支援している。また、ホームより定期的に近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・共有スペースには湿度計を設置し、温度・湿度の調整を行っている。また、季節の物を掲示し、季節感を味わうことが出来るようにしている。	一体化した居間、食堂、台所、スタッフ室等が広々とした空間を作り、白い壁面に吊るした版画や色紙、七夕飾りがほどよく調和し穏やかな明るい雰囲気を醸しだし居心地よく過ごせる工夫をしている。また窓からは田園風景と安達太良山が眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置き、好きな時にテレビ・新聞が見ることが出来るように行っており、居室と共有スペースを自由に行き来し、生活をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時にご家族に説明を行い、自宅で使用しているものをお持ち頂き、出来るだけ自宅に近い生活空間で過ごすことが出来るようにご家族にご協力をお願いしている。	居室には家族や孫の写真、子ども達の描いた絵、使い慣れた小間物入れ、大切な洋服、テレビ等があり安心して居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはその方に合った手すりの設置を行い、安心して移動が出来るように支援している。		